

## 小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級における

### 人材活用と連携・協働

#### —道徳科に焦点を当てて—

青木 利樹（東京学芸大学教職大学院）・奥住 秀之（東京学芸大学）・  
大井 雄平

要旨：本研究では，小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級における道徳科での人材活用と通常の学級との連携・協働の実態と展望を検討することを目的とし，自閉症・情緒障害特別支援学級の担任教員3名に半構造化面接を行った。その結果，自閉症・情緒障害特別支援学級の担任教員が道徳科で活用したい人材として，「障害特性を踏まえた人材」と「道徳性の涵養のための人材」の2カテゴリが導出された。通常の学級との連携・協働に関する回答からは，「交流及び共同学習」をはじめ「連続性のある多様な学び場」の考え方との関連性が認められるとともに，「通常の学級の担任教員による授業」の有効性が指摘された。これに対して，通常の学級の道徳科で行いたい取り組みとしては，学級間の相互理解および障害理解として「学級の紹介」と「啓発授業」が挙げられており，通常の学級の担任教員と特別支援教育に関わる教員の双方向的な活用が重要である可能性が示唆された。

キーワード：自閉症 情緒障害 特別支援学級 道徳科 連携・協働

### I. 問題と目的

2007年度の特別支援教育開始以降，小学校における特別支援教育の推進が注目されている。2012年に示された「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」からは，子ども一人一人の教育的ニーズに応じた支援体制の確立が重要視されている。「インクルーシブ教育システム」は，子どもの教育的ニーズに最も的確に答える指導を提供できる多様で柔軟な仕組みを整備することが重要であるとされており，特に小・中学校における通常の学級，通級による指導，特別支援学級，特別支援学校といった連続性のある「多様な学びの場」が必要であることが指摘されている（文部科学省，2012）。これらのインクルーシブ教育システムの理念は，2021年に発表された『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）においても引き継がれており（文部科学省，2021a），現在の教育システムの重要な視点の1つである。

ところで，「多様な学びの場」の1つに自閉症・情緒障害特別支援学級がある。この学級は，自閉症やそれに類するもの（自閉スペクトラム症）や心理的な要因による選択性かん黙等がある児童生徒を対象とし，小学校・中学校に準じた教育課程を編成して，学年相応の目標や内容を取扱い，教科書等も同一のものを使用する。また，障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために自立活動を取り入れることとなっている。

一方、2015年度には現行の小学校学習指導要領の改訂に先んじて、「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）が教科化された。道徳科はよりよく生きる基盤となる道徳性を養うことを目標とし、学校教育全体を通じて行う道徳教育の要として位置づけられている。道徳科の目標の達成するための重要な視点として、道徳教育教師を中心とした指導体制の充実、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ることが挙げられ（文部科学省、2018）、より一層の組織的な推進と社会との連携・協働が求められている（青木、2021）。自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する児童にとっても道徳科での学習は道徳性を養うことに加えて、社会性の発達や適応においても重要な役割を担っており、自閉症のある児童への特別な指導内容と道徳科の内容とで重なるものがあることが報告されている（青木・田中・奥住・大井、2020；青木・奥住・大井、2021）。道徳科と自閉症・情緒障害学級を関連付けた研究を見ると、竹井（2021）や宮越（2021）の実践報告などが数本ある程度に過ぎず、人材活用や通常の学級との連携・協働に焦点を当てた研究はきわめて少ない。しかし、「多様な学びの場」に位置する自閉症・情緒障害特別支援学級においてもまた、通常の学級と同様に組織的な推進と社会との連携・協働が重要であり、在籍する児童の障害特性を踏まえれば、活用する人材の配慮・工夫や「学びの連続性」の視点から通常の学級との連携・協働など自閉症・情緒障害特別支援学級独自の視点が必要であろう。

本研究では、小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級の担任教員に半構造化面接を行い、自閉症・情緒障害特別支援学級における道徳科での人材活用と通常の学級との連携・協働の実態と展望を検討することを目的とする。

## Ⅱ. 方 法

### 1. 調査参加者と調査手続き

調査には、ある市の1つの公立小学校に設置されている自閉症・情緒障害特別支援学級の担任教員3名が参加した。調査参加者の平均教職年数は10.3年（SD6.5）であった。調査参加者の所属する学校長に研究の趣旨を伝えて協力を依頼し、調査参加者本人の承諾を得たうえで半構造化面接を行った。調査期間は20XX年10月である。

### 2. 調査内容と分析

調査内容は、(1)道徳科で活用したい人材、(2)通常の学級をどのように活用したいか、(3)特別支援教育の専門性の高い教員の立場から通常の学級にどのような取り組みをしたか、についての3点である。結果は、回答内容ごとに整理し、集積された回答をそれぞれの調査項目内で類似したものごとに分類した。なお、分類の際には道徳教育推進教師経験のある小学校現職教員1名に確認し、妥当性を担保した。

## Ⅲ. 結 果

### 1. 道徳科における人材の活用

表1は、担任教員が考える道徳科で活用したい人材を示したものである。人材は回答の内容から「障害特性を踏まえた人材」と「道徳性の涵養のための人材」に分類され、「障害特性を踏まえた人材」はさらに「障害特性への理解がある人材」と「児童が身近に感じる人材」に、「道徳性の涵養のための人材」は「児童のモデルになる人材」と「地域に根付い

小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級における人材活用と連携・協働  
—道徳科に焦点を当てて—

た人材」に分類された。具体的な人材を見れば、「障害特性への理解がある人材」として福祉関係者や子どもの特性の理解者、「児童が身近に感じる人材」として同じ学校の教職員、「児童のモデルになる人材」としては、大学生や子どもが志す職業の者、「地域に根付いた人材」として地域の住民が挙げられた。

表1 道徳科における人材活用

カテゴリー	サブカテゴリー	具体的な人材	回答内容
障害特性を踏まえた人材	障害特性への理解がある人材	福祉関係者	子どもに寄り添ってくれる人でないと難しい。
		子どもの特性の理解者	暴言を吐かれても受け入れてくれるというのが前提になる。(2)
道徳性の涵養のための人材	児童が身近に感じる人材	同じ学校の教職員	身近な教職員だと子供が想像しやすい。同じ学校だと日程の調整がしやすい。
		大学生	これから子どもたち歩むであろう道を歩んでいる人たちの言葉は、子どもたちに響くと思う。
	児童のモデルになる人材	子どもが志す職業の者	将来を現実的に見据えるのが苦手な子がいる。子どもが目標をもって頑張ろうと思えたり、将来を描くことができる。
		地域に根付いた人材	その土地ですっと実践されてきたことを言葉にして伝えてほしい。

( ) 内は人数

## 2. 通常の学級に求める道徳科での連携・協働

表2は、通常の学級に求める道徳科での連携・協働であり、回答内容から「交流及び共同学習」と「通常の学級の担任教員による授業」に分類された。「交流及び共同学習」の目的として「知見の拡張」や「集団活動」が挙げられ、「通常の学級の担任教員による授業」の目的として「相互理解」が挙げられた。

表2 通常の学級に求める道徳科での連携・協働

カテゴリー	目的	回答内容
交流及び共同学習	知見の拡張	意見を言わなくても人それぞれ考えがあることに気づき、考えの世界が広がる機会になる。
	集団活動	本人が望むのなら、交流活動をやるのもいい。教職員を介したコミュニケーションが最もスムーズであり、通常の学級の様子を理解するのに有効だと思う。
通常の学級の担任教員による授業	相互理解	

## 3. 通常の学級の道徳科で行いたい取り組み

表3は、通常の学級の道徳科で行いたい取り組みであり、回答内容から、「学級の紹介」と「啓発授業」に分類された。「学級紹介」の目的は「相互理解」で、「啓発授業」の目的は「障害理解」であった。

表3 通常の学級の道徳科で行いたい取り組み

カテゴリー	目的	回答内容
学級の紹介	相互理解	特別支援学級でどのような学習をしているのか、どのような児童がいるのか知ってもらいたい。(3)
啓発授業	障害理解	自閉症・情緒障害特別支援学級に通う児童との関わり方を知ってもらいたい。(2)

( ) 内は人数

#### IV. 考 察

自閉症・情緒障害特別支援学級における道徳科での人材活用と通常の学級との連携・協働の実態と展望を検討することを目的として、ある市の1つの小学校にある自閉症・情緒障害特別支援学級の担任教員に半構造化面接を行った。

まず、道徳科で活用したい人材については、「障害特性を踏まえた人材」と「児童の道徳性の涵養のための人材」の2つの視点から捉えることができる。

「障害特性を踏まえた人材」の視点として、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する児童の特徴の1つとして他者との関わりにおいて課題があり（文部科学省，2021b），また近年は多動性や衝動性が強く表れている児童も増加している（伊藤・石川，2018）。そのため、児童にとって普段から身近でない人材をゲストスピーカーとして授業に招いた際には、児童がゲストスピーカーに対して不快な態度をとることも考えられ、それらの児童の実態や障害特性をゲストスピーカーが十分理解したうえで授業に臨めるよう事前の準備を綿密に行う必要があると考える。

「児童の道徳性の涵養のための人材」の視点としては、キャリア教育と地域教材との関連が見られた。道徳科では、発達の段階に応じてキャリア教育をはじめとする現代的な教育課題を身近な問題についても様々な道徳的価値の視点から自分との関わりで考えることが重要であるとされている（文部科学省，2018）。また、溝口（2021）は、「個人が人生の中で、職業や生き方・人生について考える際、影響を受け、参考にしたいあるいは参考にしたいと思う人物」をロールモデルと定義しており、キャリア形成においてロールモデルの存在の影響が大きいことを指摘している。本調査の結果は自閉症・情緒障害特別支援学級でのキャリア教育においてもロールモデルの存在が重要視されており、道徳科で積極的に活用したいと考えられている実態を示唆するものである。また、地域の先人や地域に根付く伝統と文化などの地域教材の活用は、授業の効果を一層高めるとされている（文部科学省，2018）。学区の小学校とは別の小学校の特別支援学級に通う児童にとっても、地域教材の活用は、学校が設置されている環境や学校を支えてくれる人々を知る機会となり「郷土を愛する態度」を育むうえで一助となろう。

次に、自閉症・情緒障害特別支援学級の担任が通常の学級に求める道徳科での連携・協働については、「交流及び共同学習」と「通常の学級の担任教員による授業」が挙げられた。「交流及び共同学習」は「知見の拡張」と「集団行動」を目的とした回答であった。少人数で構成される特別支援学級で道徳を行う際に、議論が深まりにくいという課題があることが報告されているが（青木・奥住，2022），通常の学級での授業に参加することで道徳的価値についてより多面的・多角的に考える機会を得られることが推察される。また、交流及び共同学習で通常の学級で授業を行う際には、「多様な学びの場の連続性」の視点から自立活動での指導で学習したことを活かせるよう内容や方法を工夫し、授業計画を行うことが重要であろう（奥住，2020）。一方で、自閉症・情緒障害特別支援学級の児童の中には、通常の学級で対人関係がうまくいかなかった経験をしている児童もおり、交流及び共同学習を児童の希望に沿って行うなど心理的な配慮や、通常の学級での事前学習を十分にいき、児童が安心して授業に臨める環境を作る必要性も示唆される（細谷，2011）。また、「通常の学級の担任教員による授業」については「相互理解」を目的とした回答であった。通常

の学級担任が「特別な学びの場」である特別支援学級で授業を行うことは、「多様な学びの場の連続性」を担保することにもつながり、さらには児童が通常の学級の様子を知ること、交流及び共同学習の事前学習として重要であろう。

自閉症・情緒障害特別支援学級の担任教員が通常の学級の道徳科で行いたい取り組みについてであるが、「学級の紹介」と「啓発授業」に関する回答が得られた。回答は、「相互理解」や「障害理解」を目的とし、同じ小学校の通常の学級の児童に、自閉症・情緒障害特別支援学級にはどのような児童が在籍しており、どのような学習行っているのか、どのような関わり方をすればよいのか知って欲しいという回答が多かった。加藤・武田（2017）は教科となる前ではあるが、通常の学級での道徳の時間で発達障害をはじめとした、いわゆる「目に見えない障害」の理解を促進することを重要視しており、特別支援教育の専門性の高い特別支援学級の担任がゲストスピーカーとして通常の学級で講話を行うことは障害理解の促進に有効であると推察される。青木（2021）が指摘するように、特別支援学級担任教員や通級による指導担当教員などの特別支援教育に関わる人材を道徳科の授業で積極的に活用することも大切であろう。

本研究では、小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級における道徳科での人材活用と通常の学級との連携・協働の実態と展望を検討することを目的とし、半構造化面接を行った。その結果、自閉症・情緒障害特別支援学級の担任教員が道徳科で活用したい人材として、「障害特性を踏まえた人材」と「道徳性の涵養のための人材」が挙げられた。通常の学級との連携・協働に関する回答からは、交流及び共同学習をはじめ「連続性のある多様な学び場」の考え方との関連性が認められ、「通常の学級の担任教員による授業」の有効性が指摘された。一方、通常の学級の道徳科で行いたい取り組みとしては、学級間の相互理解および障害理解を目的とした「学級の紹介」と「啓発授業」が挙げられ、通常の学級の担任教員と特別支援教育に関わる教員の双方向的な活用が重要である可能性が示唆された。

最後に、本研究の限界と今後の課題をまとめる。本研究は1つの小学校に設置された自閉症・情緒障害特別支援学級を対象としたため、サンプリングバイアスは大きく、回答の偏りはある。そのため、対象の拡大を図る必要がある。また、自閉症・情緒障害特別支援学級と知的障害特別支援学級とでは通常の学級との連携・協働の際の配慮や工夫に相違があると思われる発言がいくつか得られた。しかし、本研究では自閉症・情緒障害特別支援学級のみを対象としたため、他障害の特別支援学級の人材活用や通常の学級との連携・協働は明らかではない。今後は、他障害種の特別支援学級の人材活用や通常の学級との連携・協働との比較検討を行うことで、特徴をさらに明らかにできるのではないかと考える。

## 謝 辞

本研究の調査に協力していただきました小学校の校長先生と、自閉症・情緒障害特別支援学級の3名の先生方に心より感謝いたします。

## 引用文献

青木利樹（2021）小学校の道徳科における連携・協働の重要性と特別支援教育．教育支援協働学研究, 3, 126-127.

青木利樹・奥住秀之（2022）小学校自閉症・情緒障害特別支援学級における道徳科の指導

小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級における人材活用と連携・協働  
—道徳科に焦点を当てて—

- 上の工夫—担任教師への半構造化面接による聞き取りから—. 東京学芸大学教育実践研究, 18, 137-142.
- 青木利樹・奥住秀之・大井雄平 (2021) 小学校道徳科における発達障害児への特別な指導内容—「障害のある子供の教育支援の手引」と道徳科の内容項目との関連—. 教育研究実践報告誌, 5(1), 34-41.
- 青木利樹・田中亮・奥住秀之・大井雄平 (2020) 小学校「特別の教科道徳」におけるLD等発達障害児の特性・困難と配慮・支援—「教育支援資料」と小学校学習指導要領解説「特別の教科道徳編」との関連—. 教育研究実践報告誌, 4(1), 19-26.
- 細谷一博 (2011) 小学校及び中学校特別支援学級における交流及び共同学習の現状と課題—函館市内の特別支援学級担任への調査を通して—. 北海道教育大学紀要, 教育科学編, 62(1), 107-115.
- 伊藤佳代子・石川由美子 (2018) 自閉症・情緒障害特別支援学級における絵本の読み合い遊びを通じた自立活動の授業実践. 宇都宮大学教育学部教育実践紀要, 5, 51-58.
- 加藤充子・武田鉄郎 (2018) 小学校6年間の系統立てた障害理解教育の一提案—2つの道徳授業の実践を通して—. 和歌山大学教職大学院紀要, 学校教育実践研究, 2, 159-167.
- 宮越淳 (2020) くろぶたのしっばい. 永田繁雄 (監修) 齋藤大地・水内豊和 (編) 新時代を生きる力を育む知的・発達障害のある子の道徳教育実践 ジアース教育新社, 122-126.
- 溝口侑 (2021) キャリア形成支援におけるロールモデルの機能と関係性. 京都大学大学院教育学研究科紀要, 67, 375-388.
- 文部科学省 (2012) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進 (報告).  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm)  
(最終閲覧 2022年2月18日)
- 文部科学省 (2017) 小学校学習指導要領 (平成29年告示).
- 文部科学省 (2018) 小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説特別の教科 道徳編.
- 文部科学省 (2021a) 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す, 個別最適な学びと, 協働的な学びの実現～ (答申).  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985\\_00002.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm) (最終閲覧 2022年2月18日)
- 文部科学省 (2021b) 障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～.  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/material/1340250\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm) (最終閲覧 2022年2月18日).
- 奥住秀之 (2020) 「特別な」教育の場 その意義と課題 第1節 特別支援学校. 高橋智・加瀬進 (監修) 日本特別ニーズ教育学会 (編) 現代の特別ニーズ教育 文理閣, 81-90.
- 竹井秀文 (2021) 情緒障害がある児童に対する道徳教育—礼儀の実践を通して—. 日本道徳教育学会全集編集委員会 (編) 中学校, 高等学校, 特別支援教育における新しい道徳教育 学文社, 241-248.